日大流クラウド料理法

相川成周
日本大学総合学術情報センター

[アブストラクト]

2007年4月Google Appsの日本初の大学への大規模導入としてメディアに紹介を受けた。その後3年以上経過し、機能拡張を行なったり、運用・管理でのトラブルやセキュリティーに関わるインシデントにも遭遇した。またGoogleだけではなく各種クラウドサービスを活用し費用対効果の高い情報サービスの充実を行なっている。これらの事例紹介とともにクラウドの料理法を紹介する。

[キーワード]

クラウド、SaaS、Google、YouTube、USTREAM、Twitter

[講演要旨]

当初、学生用メールとして導入したGoogle Apps for Educationは、その後教職員用のメールとしても採用し、全学的な利用に至っている。学生・教職員ともにAPIとして提供されるシングルサインオン機能を学内DBと連携させ、効率的なアカウント管理を実現している。Google Appsにはメール機能以外にカレンダー、ドキュメントなどの各種アプリケーションが揃っており、情報管理面でも効果があることを認識し新たな活用展開が生まれている。

YouTube、USTREAM、Twitter等のSaaSを用いることにより過去には考えられなかったコストにて情報発信ができるようになった。それぞれを活用するには各々の特徴を把握する必要であるばかりではなく効果を検証する手段も持たなければいけない。またシングルサインオンの有機的な活用として学認（NII Shibboleth）にも注目し利用者にとって有意義な情報サービス模索しつつ構築を進めている。

安いクラウドサービスを使うことだけが情報戦略の全てではない。刻々と変化し続けるクラウドサービスを把握しつつ自分流に料理してゆくことが重要と考える。